

# ぽむ・ぽむ通信

N o . **55**

生協の組合員と日本ユニセフ協会を結ぶネットワーク通信「ぽむぽむ通信」は、生協組合員のボランティアグループで発行・編集をしています。生協のユニセフ支援活動に積極的にご活用ください。



## ～ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金から～

ぽむ・ぽむ通信 55 号

### 目次

|                                                  |    |
|--------------------------------------------------|----|
| ◇東日本大震災支援 日本ユニセフ協会支援報告                           | 1  |
| ～現場で活動する日本ユニセフ協会職員からの報告～                         |    |
| ～みやぎ生協学校部～                                       |    |
| ◇知っとこ。ユニセフ 公平性② ～ミレニアム開発目標達成を目指して～               | 7  |
| ◇世界の子どもたちは今 アフリカ干ばつ緊急募金                          | 9  |
| ◇生協のユニセフ支援活動                                     | 11 |
| ＊いわて生協 ＊コープぎふ ＊生協共立社                             |    |
| ◇トピックス                                           | 14 |
| ＊ユニセフ、予防接種事業を大幅に拡充へ / ハイチ大地震から 2 年               |    |
| ＊ハッピーバースデー 3.11～あの日、被災地で生まれた 11 人の子どもたちと家族の物語写真展 |    |
| ＊第 30 回 ユニセフ ラブウォーク中央大会                          |    |
| ＊ユニセフ・ネパールスタディツアーに行ってきました                        |    |

### ぽむぽむ通信 活用のすすめ

- ・ すべてのページをコピーしなくても、「知っとこ。ユニセフ」や「世界の子どもたちは今」を集めて、資料としてご活用いただけます。
- ・ ユニセフのつどいやユニセフ展、学習会の際に資料としてご活用いただけます。
- ・ 店舗の募金箱の近くに置いて、生協のユニセフ活動を紹介する際にご活用いただけます。
- ・ 生協の管理している文化センターなど、公共施設の雑誌コーナーなどにもご活用いただけます。
- ・ 写真のコンテンツも充実しているので、カラーコピーでのご使用をおすすめします。



東日本大震災

日本ユニセフ協会支援報告 ～地震から1年が経過しました～



© 日本ユニセフ協会

日本ユニセフ協会の支援により仮設園舎が建設された福島県三宝保育園の子どもたち



## はじめに



2011年3月11日に発生した東日本大震災から1年が経過しました。震災発生直後から、日本ユニセフ協会では、多くのみなさまからあたたかいご支援をいただいて、被災した子どもたちを支えるため、様々な活動をしてきました。飲料水や肌着などの緊急支援物資や、学校の再開のための文具や学用品などの提供から、各県の臨床心理士会などと協力した子どもの心のケア支援、給食センター・子ども図書館の再建支援、高校や中学総体への参加支援など、子どもたちが日常を取り戻せるよう取り組んできました。

これまで行ってきた支援活動について、その宮城県で実際に支援活動にあたった日本ユニセフ協会職員の谷口光（東日本緊急支援本部）から報告いたします。また、生協の強みを生かし当初から日本ユニセフ協会の支援に協力してきたみやぎ生協学校部が、当時の様子をまとめました。



(公財) 日本ユニセフ協会  
東日本緊急支援本部 谷口 光

2011年3月11日、日本国内における観測史上最大規模の大地震が、東北から関東にかけての東日本一帯に未曾有の被害をもたらしました。発災からおよそ1年が経ちますが、あらためて、生活協同組合のみなさまをはじめ、東日本大震災緊急支援にお力添えくださいました多くの方々に心から感謝申し上げます。まだすべてを振り返るには早すぎますが、宮城県における当初の支援活動をご紹介します。

### 震災発生当初の緊急支援活動 ～偉大な生協の力～

仙台市内でさえ、信号はおろか車両も殆ど走っていない状況下において、宮城県ユニセフ協会の事務所がある、みやぎ生活協同組合 文化会館 with には全国から次々に生協職員が集まっておられました。24時間体制の災害対策本部が迅速に設置され、支援を実施しておられた避難所は県内のおよそ1,000ヶ所にものぼったそうです。



小学校にユニセフバッグを届けた生協トラック

発災直後は、様々な物資が必要とされたにも拘わらず、物流インフラが大きな被害を受け、ガソリンの調達も非常に難しい状況でした。被災地まで物資を運ぶトラックや物流拠点となる倉庫などの確保が難航する中、日本ユニセフ協会の緊急支援物資を被災された方々のもとにいち早く届けることができたのは、被災各地の避難所などへの物流ルートを確立していた生活協同組合や、現地市民団体などとのパートナーシップによるものでした。

### 「学校へ戻ろう」～生協とユニセフの大きなシナジー効果～

具体的な例としては、『バック・トゥ・スクール（学校へ戻ろう）』キャンペーンを計画し始めたころ、県協会を通じ、みやぎ生活協同組合 学校部をご紹介いただいたことで、非常に大きなシナジー効果が生まれました。このキャンペーンで、宮城県全域の学校に学用品や備品を支援することができたのは、学校部のご協力がなければ成し得ませんでした。各学校の指定用品をすべて把握しておられ、



小学校に届けられたユニセフバッグ

必要な物を、必要な数、必要なタイミングで、そして必要としている学校まで届けていただくことができたのです。ユニセフバッグに学用品をパッケージにして梱包・配布したのですが、県内の子ども達が少なくとも必要最小限の学用品を手にもたらしたことは大きな意味があったと思います。日頃から地域に根差した事業を展開され、何よりも職員のみなさまが使命感を持って業務に当たっておられましたので、現場の士気は非常に高く、子ども達だけでなく私自身も随分と勇気づけられました。



女川第二小学校に掲示されていた  
ユニセフの感謝状

瓦礫と化してしまった被災地の学校には、これまで継続的に、開発途上国の子ども達を支援するユニセフの活動にご支援いただいている学校も数多くあります。ユニセフバッグを背負って、元気に登校する子ども達を目にすると、様々な感情が込み上げてきます。

これからの被災地を担う子ども達が更に大きな夢を持って歩んで行けるように、何よりも被災地が1日も早く日常を取り戻せるように、みなさまと想いを一緒にしながら少しでもお役に立てるようにならなりたいと考えています。

#### <宮城県女川町の移り変わり>



2011年3月23日



2011年3月31日



2011年9月9日



2011年10月24日

※写真はすべて © 日本ユニセフ協会



（株）宮城県学校用品協会

常務取締役 小野英男

## 『町の復興には学校がないとダメだ！』

未曾有の被害をもたらした東日本大震災から1年が経ちましたが、かつての街からは、がれきを取り除かれたものの、処理しきれずにうず高く積まれたままです。しかしながら、震災直後から大勢の人たちが復旧復興に向け大きな力を発揮し、現在に至っています。

### ● ● 震災直後 ユニセフと生協のタッグ ● ●

みやぎ生協学校部（宮城県学校用品協会）は、宮城県内すべての地域の学校を営業範囲とし、常日頃のきめ細かな対応が学校の先生方から深い信頼を得ておりました。

新年度を目前にしていた3月11日、大震災が起こりました。

ユニセフからの支援がいち早く開始され、海外のユニセフ事務所で活動している日本人スタッフ数名が東北の被災地に入りました。日本ユニセフ協会が窓口となつての支援活動が開始されました。

飲料水や子ども用の下着類、衛生用品など、助かった命を守るための支援物資は、みやぎ生協の共同購入のトラックで被災地に運ばれて行きました。

ユニセフの職員からは「あー、この地に生協があつてよかった！」と安堵されました。

### ● ● 「学校再開に必要なものは？」 ● ●

次に、4月になったら新年度、入学式や始業式を迎えます。学校を始めなければなりません。

ユニセフは学校再開に向け支援を決定、すかさず、みやぎ生協学校部を訪れ、ユニセフの支援物資を被災した学校に届けることを依頼しました。

私たち学校部では、震災発生後から各学校で何が足りないかを聞き取っていました。地域や学校で必要なものは異なり、その情報をユニセフのスタッフに伝え、新学期に使う教材を素早く学校に届けることができました。

定期的に学校を訪問している学校部の職員と、所有していた車両の存在が、大きな役割を果たしました。機動力を発揮したこの取り組みに対して、今も学校現場から、感謝の言葉や手紙などが届いております。



© 日本ユニセフ協会 /2011/K.shindo

支援物資を運ぶみやぎ生協のトラック

## ● ● 例年通りの入学式を ● ●

3月下旬、ユニセフだけでなく、他の NGO も加わり、同様の支援が開始され、それらを調整するために宮城県教育委員会が連絡協議会を作りました。

各支援団体は、支援するエリアや支援物資などを協議し、分担しました。その際、偏った支援にならないように、私たちは積極的に情報提供を行いました。

学校再開では、町全体が壊滅した女川町の教育長が、「町の復興のためには学校がないとダメだ!」という熱い思いを胸に、例年と変わらない4月8日の始業式・入学式の開催を決定しました。そうなると教材もその日までに全部揃えなければなりません。学校部の職員はほんとうによくがんばりました。しかし、前日の4月7日深夜に強い余震があり、会場の再整備が必要との学校側の判断で、12日に延期になりました。

入学式において、宮城県ユニセフ協会の五十嵐事務局長から、ユニセフ・バッグに詰めた学用品セットとランドセルが、代表児童にプレゼントされ、喜んでいる新入学児童の笑顔がとても印象的でした。

これらのことに対して、女川町教育委員会と小中学校長会との連名でお礼の手紙が届きました。明日を担う子どもたちの教育に責任を持つ教育委員会や校長会の前向きな気持ちがよく表れている内容で、逆にこちらがとても感激いたしました。



© 日本ユニセフ協会  
学用品をセット中

被災地の小中学校では、入学式・始業式が例年よりもかなり遅い時期に行われました。

4月16日には、気仙沼市の中学校10校、石巻市の中学校21校、七ヶ浜町の小中学校3校、塩釜市の小学校1校、名取市の小中学校の3校に向け、ユニセフ・バッグに詰めた学用品4000セットや学校向



© 日本ユニセフ協会  
被災児童生徒に贈られた  
ユニセフ・バッグ

け教材教具を、共同購入の配達車両を使い、休日にもかかわらず、学校部の全職員を配置し、一斉に届けることができました。

ユニセフが支援したランドセル、ワークブックや資料集、体育着、上靴などの学用品、教材教具を、一括準備し届けたのは、みやぎ生協の学校部でした。ある程度落ち着きを取り戻してからも、宮城県教育委員会や市町村教育委員会・学校現場などからの様々な要望に応える取り組みや調整役を展開してきております。



「学校再開支援事業」を掲げ、  
いっせいで配達出発

## ● ● 仙台に響く音楽の力 ● ●



© 日本ユニセフ協会 /2011/Mariko Miura

ベルリン・フィルからの  
プレゼント

仙台市立榴岡小学校で開催



© 日本ユニセフ協会 /2011/Mariko Miura

ユニセフ親善大使である「ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団」の木管五重奏団のミニ・コンサートを仙台市立榴岡小学校で開催する際にも、ユニセフと県協会、各学校などと連携しながら、企画にあたりました。

復興元年といわれる今年、ユニセフは、「まちづくりに子どもの視点を」取り入れるよう活動をすすめていきますが、みやぎ生協もユニセフの良きパートナーとして、これまでと変わらず連携した取り組みを行ってまいります。

### この歌で6年生が新 1 年生を迎えました。

(女川第二小学校の入学式)



この坂道をのぼったら、ほくの学校があります。

ジャングルジムにのぼれば海が真っ青に見えます。

青空に抱かれたほくの自慢の学校、この坂道をほくは毎朝風をきって駆けます。

この坂道を下りるのは空が赤く燃えるころ。丘を渡る澄んだ空気、後ろに長い影。

友だちの笑顔も夕焼けに染まります。この坂道をほくは明日も口笛とのほります。



知りたい?

知っここ。ユニセフ

公平性 ②

～ミレニアム開発目標達成をめざして～

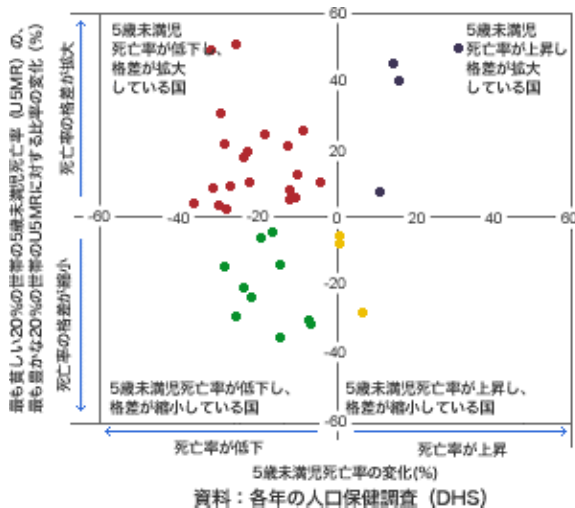
2010 年ユニセフが発行した 2 つの報告書。調査結果により、最も貧しく最も困難な条件に置かれている子どもたちへの支援を行えば、より多くの命を救うことができることが明らかになりました。

「公平性に重点をおいたアプローチ」 ・ ・ 何故なら **公平でない** ・ **格差** があるのです。

例えば ・ ・ 5 歳未満児の死亡率を 3 分の 1 に減らすという目標があります。確かに数字的には前進していても、改善されているところと取り残されているところ、格差はむしろ広がっているのです。

開発目標④ 乳幼児死亡率の削減 — 5 歳未満児の死亡率を 3 分の 1 に減らす —

子どもの死亡数削減について大きな前進が見られてはいるものの、幼い子どもの死が、最も貧しい国々の最も厳しい環境で生きる子どもたちに集中するという、傾向が明らかになってきています。



最貧層と富裕層

農村部と都市部

サハラ以南アフリカ

南アジアの貧しい国々 と他の国々

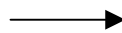
など ・ ・ ・ 深まる不公平性

目標指数達成のため 平均値の上げやすい対象を優先してしまったら 格差はなくなる。

◎ 5 歳までに命を落とす可能性

◎ 低体重・発育障害に陥る可能性

富裕層



最貧層が

2 倍以上

◎ 5 歳までに命を落とす子どもの 8 割以上は ・ ・ ・

サハラ以南のアフリカ・南アジアの貧しい国々  
この地域に集中

そ  
の  
他

## 「公平性に重点をおいたアプローチ」の正当性

最も厳しく不利な状況におかれた子どもたちに、より一層、より深く支援を進めていく  
ユニセフの取り組みは「**どんな時にも、弱い立場におかれた子どもたちを最優先する**」  
という理念が、道徳的に正しいだけでなく 現実面でも費用効率としても成果のある戦  
略であることを 報告書の調査結果は告げています。

どんな調査結果か・・・

- 公平性（格差の是正）に重点を置いたアプローチは費用対効果が高く、他のアプローチと比較して、子どもや妊産婦の死亡数および発育阻害数を大幅に削減することができる。
- 死亡率の高い低所得国で、5歳未満児死亡数を削減するために100万米ドルを投資した場合、公平性に重点を置いたアプローチを用いると、現行のアプローチよりも削減できる死亡数がおよそ60%上昇する。
- 疾病や健康への悪影響、非識字といった国の問題が、最も貧窮した子どもたちに集中している。これらの子どもたちに医療や保健、教育などの必須の社会サービスを提供することにより、MDGs達成への歩みを大きく加速することができ、国内の格差を縮小することができる。

## ユニセフ アンソニー・レーク事務局長の言葉

「ミレニアム宣言は、世界で最も困難な条件に置かれている人々の生活を改善することを目的としています」「私たちはこれらの調査結果が、私たちがMDGsを達成するために、そして、何百万人もの脆弱な子どもたちの生活を改善するために、私たちの力になってくれるものと考えています。

2つの報告書

☆『目標達成のための格差の是正（Narrowing the Gaps to Meet the Goals）』

☆『子どもたちのための前進：公平性のあるMDGsの達成をめざして（Progress for Children: Achieving the MDGs with Equity）』

ユニセフ協会のHPでご覧いただけます。

\* こちらから⇒ [http://www.unicef.or.jp/about\\_unicef/about\\_mid\\_mdg.html](http://www.unicef.or.jp/about_unicef/about_mid_mdg.html)



# 世界の子どもたちは今

アフリカ干ばつ緊急募金

前は、深刻な干ばつ被害に  
苦しむ『アフリカの角地域』を  
調べて来たよね。

うん。その干ばつ被害が、  
ここ『サヘル地域』にも  
広がっているんだ。

うわー！！広ーい！

あれがサハラ砂漠。  
アフリカ大陸の約3/1・・・  
え〜と、日本の面積の24〜25倍も  
ある世界最大の砂漠で、その南側に  
あるのが『サヘル地域』。8カ国に  
またがる広い地域なんだね



ユニセフは『アフリカの角地域』  
に『サヘル地域』の8カ国を含め  
【アフリカ干ばつ緊急募金】を  
開始しています。



ここ3年ほとんど雨が  
降らなくて、農作物は  
不作続き。  
今年は特にひどくて  
食糧不足なの。  
わずかな食料も、値段  
が高くて買えないの。

何も食べられない日も  
多いのよ。  
体力の無い子どもたちは  
100万人以上が栄養不良で、  
命さえ危ない状況に  
なっているの。

まずは、  
**命を守ることが第一！**  
急性栄養不良の子どもたち  
の治療と栄養補助食品の  
配布をいそいでいるの。



①

②

私の国では、備蓄している食糧がこの  
3月には無くなりそうなんです。

支援に必要な資金の半分も  
集まってないんだよ。



そりゃあ急がないと！！  
少しでも募金するぞ〜！

うん。干ばつがこのまま  
続けば、状況はますます悪く  
なりそうなもの。



一人でも多くの子どもたちの命が助かってほしいね。これからもずっと、支援していこうね！



## アフリカ干ばつ緊急募金にご協力をお願いいたします

日本ユニセフ協会では、昨年よりアフリカの角（つの）地域の子どもたちの危機に際して、「ソマリア干ばつ緊急募金」へのご協力をお願いしていましたが、干ばつの影響がアフリカのサヘル地域（ニジェール、ブルキナファソ、カメルーン北部、チャド、マリ、モーリタニア、ナイジェリア北部、セネガル北部）でも広がりつつあります。早ければ本年 3 月には、食糧の備蓄が底をつく国も出始めることが、懸念されています。



（日本ユニセフ協会ホームページより）

ユニセフの調査では、5 歳未満児の栄養不良率が上がり始めており、緊急に支援を行わなければ、100 万人の子どもたちが重度の栄養不良に陥る恐れがあります。

この状況を受けて、日本ユニセフ協会はアフリカの角とサヘル両地域の子どもたちを支援するため、「アフリカ干ばつ緊急募金」の受付を 2012 年 1 月 20 日（金）から開始しました。

なお、サヘル地域などへの干ばつ被害の拡大に伴い、「ソマリア干ばつ緊急募金」〈アフリカの角地域（東部 4 カ国：ソマリア、エチオピア、ケニア、ジブチ）を対象〉は「アフリカ干ばつ緊急募金」として受付を継続させていただきますので、今後とも協力をよろしくお願いいたします。



©UNICEF/NYHQ2010-1590/Pierre Holtz

### 【アフリカ干ばつ緊急募金】

郵便局（ゆうちょ銀行） 振替口座：00190-5-31000

口座名義：公益財団法人日本ユニセフ協会

\* 通信欄に「アフリカ干ばつ」と明記願います。

\* 送金手数料は免除されます。

⇒日本ユニセフ協会 HP

[http://www.unicef.or.jp/kinkyu/africa\\_drought/](http://www.unicef.or.jp/kinkyu/africa_drought/)

※ユニセフは 2 月 6 日、サヘル 8 カ国が現在置かれている状況と、今後 6—12 カ月間に起こりうる状況を概観し、国際社会の支援を求める緊急アピールを発表しました。

詳しくはこちらから ⇒ [http://www.unicef.or.jp/kinkyu/africa\\_drought/2012\\_0214.htm](http://www.unicef.or.jp/kinkyu/africa_drought/2012_0214.htm)



## 「ハンド・イン・ハンド」募金に取り組みました

日本ユニセフ協会が呼びかける「ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金活動」は、今回、第 33 回目を迎えました。世界の危機に瀕している子どもたちを守り、幸せな未来を実現するために展開されるこの募金キャンペーン、今回は「S O S ! 栄養不良で苦しむ小さな命を守ろう!」というテーマが掲げられました。全国の生協でも多くの方が参加し、募金を呼びかけました。各地の取り組みをご紹介します。



### いわて生協 ～被災地での募金活動～



ポスターを独自に作製し、協力を呼びかけました

### 「東日本大震災支援・子どもたちに笑顔をおくろう」

東日本大震災で大きな被害を受けた東北で、ユニセフは約半世紀ぶりに日本への支援を行っています。いわて生協では、岩手県ユニセフ協会などと協力し、毎年ハンド・イン・ハンド募金に積極的に取り組んでいますが、今年は独自に「東日本大震災支援・子どもたちに笑顔をおくろう」という独自のテーマを設定し、震災支援のための緊急募金活動を行いました。

いわて生協 組織本部山崎さんによると、今回の震災を受けて独自のテーマを設けての活動となったことや、岩手県の子どもたちがたくさんの方の支援を受けたことを、多くの方に知ってもらえたらと、事前に“紙芝居”やポスター、配布用チラシを作成したそうです。

### 事前学習用の紙芝居

“紙芝居”では、県内での支援の様子を写真とコメントで紹介し、ユニセフへの理解を深めてもらえるよう工夫しました。

DVDを観たりパワーポイントで説明しながらの学習はこれまでも行ってきましたが、時間や場所の制限があり、参加できる方も限られます。そういう場に参加できない方に向け、“紙芝居”を用いて募金の会場で短時間での学習を行ったところ、これが大変好評だったそうです。

#### ● ● 紙芝居 ● ●

紙芝居は全部で 18 枚。  
写真を多く使い、少しでも  
現場の空気が伝わるよう、  
工夫しました。



## 各地での街頭募金 ～被災地でも～



水沢コープアテルイ店での募金活動  
「寒風のなか中学生が元気に呼びかけしました」

街頭募金活動は、いわて生協では 21 会場 480 人（子ども 365 人）のボランティアが参加し、568,502 円の募金が集まりました。

被災地域である宮古・久慈でも、募金が行われ、とくに宮古は 136 人の中学生が参加して、3 時間で、昨年より多い 16 万円の募金が集まりました。

### 参加者の感想

- ・やさしさが復興に繋がっていくので、とてもやさしい気持ちになりました。
- ・被災地の役に立ててよかった。
- ・被災者の方も募金してくれました。



## コープぎふ ～広がる取り組み～

### 地元の小、中、高校生などが参加

コープぎふでは、今年 37 会場でハンド・イン・ハンド募金を実施しました。

2011 年度、全体で募金取り組みの場は 15 会場増えることとなり、11 会場では地元の小、中、高校生などの参加がありました。参加者は合わせて 355 名となり、前年を上回りました。



中高生が大勢参加しました  
西濃 JR 大垣駅北口、南口周辺にて



### エリア委員が参加を呼びかけ

地区総合支援部の三和さんにお話を聞きました。

「取り組みが広がっている背景には、子どもたちに参加を呼びかけていることがあるかと思います。エリア委員さんが、地域の小中学校などをまわり、生徒会やボランティアサークルにお声がけします。一度つながりができると、毎年参加してくれる学校が多いですね。」



初めてハンド・イン・ハンド募金に取り組んだ飛騨地区での活動

- ・始めは声が出なかったが、貴重な体験ができてよかった。

地元の高校やNPOと共催し、初めてユニセフハンド・イン・ハンド募金に取り組んだ飛騨地区の会場ではスーパー駿河屋の店舗を会場に 35 名が参加しました。

約 1 時間半の活動でしたが、約 8 万 4 千円の募金が集まりました。

#### 《参加者の感想》

- ・寒い中でしたが、たくさんの人が募金してくれたことがうれしかった。
- ・他団体とできたことが力になった。
- ・子どもが競うように声を出していた。親子で参加できてよかった。



### 生協共立社 ～広がる取り組み～

## 楽器演奏などで楽しい雰囲気

### 【鶴岡会場】

鶴岡の会場では、楽器演奏をして盛り上げたり、“ハンドベル”でクリスマスソングを奏でたりして、募金を呼びかけました。

地区理事会が手づくりポップコーンを販売し、売り上げをユニセフ募金にする、という取り組みもありました。

### 【酒田地域】

酒田地域では、2 会場で組合員ボランティア総勢 14 名が参加しました。会場となった店舗の「5%還元・スタンプデー」の日と重なっていたこともあり、多くの募金が寄せられました。



店舗のスタンプデーにあわせた募金活動

### 【千石会場】



千石会場では、理事さんの声掛けで、オカリナ教室の先生や生徒さんたちによるミニコンサートが開催されました。買い物に来た子どももマラカスで参加し、楽しい雰囲気になりました。



千石会場でのオカリナミニコンサート

### 【山形地域】

山形地域では、デパート前で街頭募金を行い、組合員ボランティアの方と、毎年参加している高校の生徒、総勢 29 名が取り組みました。

高校生が一生懸命声を出して訴えるので、とても注目を集めていました。

このほか、多くの生協でハンド・イン・ハンド募金に取り組まれ、全国から約 200 万円が日本ユニセフ協会に送られました。(2012 年 1 月 31 日時点)



## ユニセフ、予防接種事業を大幅に拡充へ

2012 年 1 月。ユニセフは、世界各地で展開している子どもたちのための予防接種支援を、大規模に拡充することを計画していると発表しました。

予防接種支援は長年にわたり、ユニセフの支援活動の大きな柱の一つです。最も公平で費用効果も高く、予防可能な病気から多くの子どもたちの命を守ってきました。それでも毎年、子どもたちの 20%が予防接種を受けないまま取り残されています。

この分野で常に重要な役割を果たしてきたユニセフが、その重要さ故の役割を、改めて見直す時期にあるということです。

### ○ 体制の強化

予防接種支援の現場を取り巻く状況は常に変化しています。新しいワクチンが次々と開発され、“市場”に投入されています。ワクチンの価格も以前より高額になる傾向があるようです。近年、肺炎や下痢のワクチンが開発され、マラリアのワクチンも間もなく登場することが期待されています。一方、予防接種を普及させるための体制はここ何年にもわたってほとんど変化がありません。そこで、これまでの“役割”をより効果的に展開していくための体制の見直しとなりました。

ワクチンの供給・物流管理から保健スタッフのトレーニングまで、ユニセフの予防接種支援事業は、様々な保健支援事業と連携しながら実施されていますので、事業の大幅拡充は他の保健支援活動の拡充にもつながることになります。

2010 年の 1 年間、ワクチンの調達にユニセフが投じた資金は約 7 億 5700 万米ドル (584 億 3200 万円余) にのぼります。国際社会が取り組む予防接種活動の中で特に重要な役割を果たしてきたユニセフは、予防接種活動に充てる資金を今後 5 年間に、これまでの 3 倍に増やす予定です。



(c)UNICEF/NYHQ2011-0186/Zaidi

洪水被害に見舞われたパキスタンのシンド州の避難民キャンプでポリオの予防接種を投与される男の子

### ○ ポリオ根絶宣言への期待

長い間、子どもたちを苦しめてきたポリオの根絶宣言ができる日が近づいていると、国際的な保健専門家たちは期待しています。そしてポリオ根絶という大きな“一里塚”が、ユニセフが展開する他のワクチンの予防接種支援事業を拡充する機会を広げることが期待されます。「最も弱い立場に置かれている子どもたち」に、優先して必要な支援を届ける、というユニセフの組織全体としての役割を、より効果的に実践することにつながるのです。

日本ユニセフ協会HP

〔協会からのお知らせ 2012 年〕より抜粋・編集 [http://www.unicef.or.jp/osirase/back2012/1201\\_01.htm](http://www.unicef.or.jp/osirase/back2012/1201_01.htm)

## 「ハイチ大地震」から2年

2010年1月にハイチを襲った大地震から2年が経ちました。子どもたちを取り巻く状況は少しずつ改善してはいますが、本来持っているはずの生存や発達、保護される機会がいまだに限られた形でしか得られていない状況です。

### ○ 大きな進展がみられた教育、保健、栄養、保護の分野

ユニセフの支援で学校に戻れた子どもは75万人を超え、そのうち約8万人は193校に造られた耐震構造の教室で授業を受けています。また、12万人以上の子どもが520箇所に設置された「子どもに優しい空間」で、心のケアの専門家による遊びのプログラムに参加しています。

深刻な栄養不良状態にあった1万5,000人以上の子どもが、314箇所で治療的栄養支援プログラムを受診しています。95の農村地区で、衛生習慣を改善するための新しいプログラムがスタートしています。

ユニセフは、国による養護施設の管理・支援体制の確立を支援。養護施設に保護されている子どもたちのための法的な枠組みが強化され、これまでに養護施設で暮らしていると推定される5万人の子どものうち、1万3,400人以上の所在が確認され、登録が完了しました。



(c)UNICEF/NYHQ2011-2056/Dormino

山岳地帯ペチャルで壊れた黒板の前に立つ女の子。  
ユニセフが支援しているコレラや下痢性疾患などを  
予防するための公衆衛生の勉強会に参加した。

### ○ 求められる強固な支援

ユニセフはこの1年間、復興支援の一環として、子どもたちの権利の具体化を阻んでいた様々な問題に対処すべく、緊急支援に加え、社会制度の再構築のための活動を実施しています。しかし、こうした活動に必要な資金と国際社会から寄せられた支援額との間には、いまだ大きな開きがあります。ユニセフは、2012年に緊急に必要な資金として2,400万米ドルの資金を求めています。

日本ユニセフ協会HP「ハイチ地震復興支援募金 第79報」より抜粋・編集  
[http://www.unicef.or.jp/kinkyu/haiti/2012\\_0110.htm](http://www.unicef.or.jp/kinkyu/haiti/2012_0110.htm)

## 写真展のお知らせ



# ハッピーバースデー 3.11 ～あの日、被災地で生まれた11人の子どもたちと家族の物語～

2011年3月11日に被災地で生まれた子どもたちの写真とその日の物語で構成された写真展とムービーが、現在ユニセフハウスで公開されています。

たくさんの大切な命が失われたあの日、過酷な状況の中生まれてきてくれた新しい命は、その家族や周囲の人々の様々な想いに包まれて、いまでも育まれています。

撮影した写真家の小林紀晴さんは、  
「過去をいっさい持たない子どもほど、未来を強く感じさせるものはありません。私はその小さな姿に、希望を託す気持ちでカメラを向けました」と話されました。

【会 場】 ユニセフハウス 1F 〒108-8607 東京都港区高輪 4-6-12

【開催日時】 2012年3月1日(木)～3月30日(金)

10:00～18:00 (最終日は15:00まで)

(日曜日・祝祭日・第2第4土曜日をのぞく土曜日は閉館となります)

※入場無料

特設サイトはこちら⇒ <http://happybirthday311.jp/>



© 日本ユニセフ協会



## 2012年度 第30回ユニセフ・ラブウォーク中央大会



【趣 旨】 ウォーキングを通して、世界の子どもたちの健康を考える機会を提供します。  
そしてこの一年間、全国で開催されるラブウォークに先鞭をつけて、昨年を上回る数のラブウォークが各地で開催されるように勢いをつけます。特に子どもの参加を促し、スカウトを含め多くのボランティアのご協力の下に運営します。

【テーマ】 栄養不良から、子どもたちを守ろう。

【主 催】 日本ユニセフ・ラブウォーク協議会

【後 援】 港区および港区教育委員会、文化放送

【協 力】 日本ボーイスカウト東京連盟、ガールスカウト東京都連盟

【協 賛】 記念品、飲料水を提供して下さる企業、計十数社

【参加費】 大人 ￥500、こども（18歳未満）￥200

【開催日時】 2012年4月1日（日）雨天決行 受付開始 9時  
出発 9時30分（12キロコース） 10時（6キロコース）

【開催場所】 起点、ゴールともにユニセフハウス。

【コース】 **12キロコース：**

ユニセフハウス→高輪公園→桂坂→泉岳寺→伊皿子坂→魚藍坂→新坂  
→有栖川宮記念公園→仙台坂→麻布十番商店街→芝公園→三田駅→本芝公園  
→田町駅芝浦中央公園→品川駅→柘榴坂→ユニセフハウス

**6キロコース：**

ユニセフハウス→高輪公園→泉岳寺→聖坂→田町駅→藻塩橋→芝浦橋  
→芝浦中央公園→品川駅→柘榴坂→ユニセフハウス

【募金贈呈など】 ウォーカーは12時から12時半ごろゴール予定  
12時30分募金贈呈式 13時30分解散  
12時より15時まで、展示見学（希望者のみ）

【申し込み・お問い合わせ】 日本ユニセフ協会 団体組織事業部まで  
（電話：03-5789-2012 / メール：event-dr@unicef.or.jp）  
※また、会場での当日参加受付も行います。



## ユニセフ・ネパールスタディツアーに行ってきました

2012年2月18日～26日にかけて、生協や日本ユニセフ協会地域組織から計12名がネパールを訪問し、コミュニティ組織、村落開発委員会、早期幼児開発センター、出産センター、女性連盟などで、地域主体の子どもと女性のためのプログラム（DACAW）や子どもに優しい地方自治（CFLG）の活動の現場を視察しました。



|          |                                                                                                                                                                |
|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2月18～19日 | バンコク（タイ）経由でカトマンズへ                                                                                                                                              |
| 2月20日    | ◆カトマンズのユニセフネパール事務所でブリーフィング（空路ビラトナガルへ）                                                                                                                          |
| 2月21日    | ◆ユニセフフィールド・オフィスでブリーフィング<br>◆Baunidevi 早期幼児開発（ECD）センター訪問<br>◆Budeswari 小学校訪問<br>◆コミュニティ組織訪問（ラハンまで車で移動）                                                          |
| 2月22日    | （Nargho 村落開発委員会（VDC）まで車で移動）<br>◆Ward Citizen Forum (WCF) 訪問<br>◆非公式教育の授業を見学<br>◆トイレの設置現場を見学<br>◆青少年グループのメンバーと交流<br>◆村落開発委員会（VDC）のメンバーと交流<br>◆パラリーガル委員会のメンバーと交流 |
| 2月23日    | （サプタリ郡中心地 Rajbiraj へ車で移動）<br>◆郡開発委員会（DDC）訪問<br>（Kanchanpur 村落開発委員会（VDC）まで車で移動）<br>◆女性連盟訪問<br>◆出産センターを訪問（ビラトナガルまで車で移動）                                          |
| 2月24日    | ◆ユニセフのパートナー団体の FOHReN 事務所を訪問（空路カトマンズへ）<br>◆ネパール事務所代表 Ms. Hanaa Singer 宅を訪問                                                                                     |
| 2月25～26日 | バンコク経由で帰国                                                                                                                                                      |

視察の詳細は、次号でご紹介します。

## ぽむぽむ広場

### 編集後記

- ◆ 『ぽむぽむ通信』に初めて参加します。ちばコープで組合員広報誌『はらっぱ』を担当して10年間。新しき出会いを求めて旅立つことにしましたが、この会議には初参加でちょっとドキドキ！ 久しぶりの感覚、ちょっと忘れていたかも……。そこには、ユニセフをグローバルに捉えしっかりと自分の意見をもった人々との出会いがありました。このつながり、大切にしたいなあ。ユニセフについては殆どわからない私ですが、これから少しずつ知っていければと思っています。(T)
- ◆ 第55号をお届けします。今号から、編集委員会に参加させていただくことになりました。東日本大震災からちょうど1年の節目となる今回の特集では、日本ユニセフ協会とみやぎ生協両方の視点から、互いの協力があったからこそかなった支援について、語っていただいています。『ぽむぽむ通信』もまた、生協と日本ユニセフ協会が協力しながら、一号一号作られてきました。ユニセフの活動の幅広さや、世界中で起きている問題の深刻さ、全国の生協の取り組みについて、一緒に学びながら、これから編集に携わっていききたいなあと思います。どうぞよろしくお願いします。(中)

### ユニセフ＊コープネットワーク



No. 55 2012年3月15日発行

編集 **グループ ぽむ・ぽむ**

スタッフ・編集／相澤・尾澤・小池・谷杉・土橋・  
浜崎・福本・藤森・松本・山本・  
石尾・中村・中本

イラスト／蛸沢

発行 日本生協連 組合員活動部

〒150-8913

東京都渋谷区渋谷 3-29-8 コーププラザ 11F

TEL03-5778-8124 FAX03-5778-8125

ホームページ <http://jccu.coop/unicef/>

○ぽむぽむ通信第55号をお届けします。

東日本大震災発生から1年が経ちました。今号では、発生当初から支援に携わる日本ユニセフ協会と生協の活動を集めました。ほかにもアフリカでの厳しい干ばつ・飢饉の被害や、ユニセフの「公平性に重点を置いたアプローチ」、予防接種事業拡充などについても取り上げています。

○全国の活動事例や、ぽむぽむ通信の感想・ご意見をお待ちしております。

○次号は、2012年6月15日発行予定です。